

財政政策：講義の予定と内容

2013年冬学期火曜2限：井堀利宏

1. 財政政策の理論と現実に関して、マクロ、ミクロ経済学の理論的な枠組みを用いて、解説する。
2. 講義の水準は学部レベルよりはやや高いが、標準的な大学院レベルよりはやさしい。テクニカルな厳密性よりも、直感的な説明や現実的な政策含意を重視する。
3. 成績判定
 - ① (試験 70%+レポート 15%) 成績判定は期末試験(1月21日)を中心にするが、1月14日に簡単なレポートを提出してもらい、その内容も考慮する。
 - ② (プレゼン 10%) 各講義の後半にレポートの報告を行い、1人5分間で自分のレポートについてプレゼンをする。
 - ③ (感想文 5%) 財務省のレクチャー(10月8日,15日(予定))に出席して、その感想をそれぞれ400字程度にまとめて提出する。

講義予定

10月 (5回)

- 1日 全体のイントロ
- 8日 財務省主税局の講義
- 15日 財務省主計局の講義
- 22日 マクロ財政政策
- 29日 財政再建

11月 (4回)

- 5日 社会保障(公的年金)
- 12日 公共事業
- 19日 その他歳出(防衛、ODA、農水、教育、環境、医療など)
- 26日 官と民の役割分担(公共財、民営化など)

12月 (3回)

- 3日 課税の理論(税制改革)
- 10日 所得税(所得再分配)
- 17日 消費税(目的税)

1月 (2回)

- 7日 休講
- 14日 地方分権、地方財政
- 21日 試験

感想文

財務省主計局、主税局（予定）のレクチャーに出席して、その感想をそれぞれ 400 字程度にまとめて提出する。

提出期日：2 回のレクチャーから 1 週間後の講義時間終了時（10 月 22 日）

レポート

問題：各講義と関連する分野でプレゼンを行った内容について、まとめる

分量：A4 で 5 枚程度

提出期限：1 月 14 日の講義終了時に回収する

プレゼン

1 人 5 分間で自分のレポート課題についてプレゼンをする。一人 1 回のみ

テーマ：各講義のトピックについて、現状、課題と望ましい改革のあり方を議論する

（例：「財政再建」の場合：財政再建の現状とその課題、望ましい改革のあり方）

期間：10 月 29 日から 1 月 14 日までの 9 回の講義で、各講義時間の後半部分（毎回大体 3，4 名程度＝合計 30 分間：午前 11 時 30 分から 12 時程度）をプレゼン（質疑応答も含む）の時間に充てる。報告時間は 1 人当たり 5 分＋若干の質疑応答を想定

ただし、1 つのトピックに集中しすぎないように、1 講義トピックあたり 5 人までとする（受講する学生数に応じて変更有り）

割り振り：10 月 8 日までにプレゼンの希望日（および希望のトピック）[をメールで ihori@e.u-tokyo.ac.jp](mailto:ihori@e.u-tokyo.ac.jp) へてに連絡すること。なお、その際に「財政政策のプレゼン希望」というメールの題目を必ずつけること（そうでないと、開封しないで削除する可能性アリ）。第 1 希望、第 2 希望、第 3 希望まで明記すること。1 つのトピックに希望が集中すれば、こちらで適宜割り振る。その結果は、10 月 15 日までにメールで知らせる。

参考書

1. 『公共部門の業績評価—官と民の役割分担を考える』井堀利宏編 東京大学出版会 2005 年
2. 『公共経済学入門』井堀利宏 日本経済新聞社 2005 年
3. 『小さな政府の落とし穴』井堀利宏 日本経済新聞社 2007 年
4. *Public Finance and Public Policy: Responsibilities and Limitations of Government* by A. Hillman, Cambridge UP, 2003 日本語訳あり
5. *Why Government Succeeds and Why It Fails* by A. Glazer and L. S. Rothenberg Harvard UP, 2001. 日本語訳あり